

スパイの妻

観賞日 2025年10月27日 上映時間 115分

【概要】

制作 2020年
監督 黒沢清
脚本 濱口竜介、野原位、黒沢清
音楽 長岡亮介
撮影 佐々木達之助
出演 蒼井優（福原聡子）、高橋一生（福原優作）、東出昌大（津森泰治）、
坂東龍汰（竹下文雄）、笹野高史（野崎医師）、恒松祐里（福原家の女中・駒子）



【あらすじ】

第2次世界大戦前夜の1940年。神戸で貿易商を営む福原優作のもとに憲兵の津森泰治がやって来る。泰治は優作の妻聡子の幼馴染。泰治は優作に時節柄、英米人との付き合いには気をつけるよう忠告するが、自由人の優作は意に介さない。優作は甥で社員の文雄と満州に旅立つ。帰還時、優作の側には見知らぬ女がいたが、やがてその女の死体が発見される。退職した文雄のもとを訪れた聡子は文雄から封筒を渡され、優作以外のものには渡さないよう念押しされる。その封筒には、関東軍が細菌兵器開発のために行った人体実験の記録ノートとフィルムが入っており、それが外部に漏れれば国際問題にもなるものであった。しかし、優作の行動に疑念を抱いていた聡子はそれを憲兵の泰治に持ち込んでしまう。そのため文雄は拷問にあい、優作も嚴重注意処分となる。聡子の協力を得た優作は、聡子が撮ったノートのコピーを使い、優作と聡子が二手に分かれてそれぞれ記録とフィルムを別々にアメリカに持ち込み国際世論に訴えるという計画を立てる。いよいよ計画実行の日。聡子は計画通り商船にもぐりこむが、思わぬ密告によりフィルムは官憲の手に渡ってしまい・・・。

ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞受賞の戦時ミステリー。

【解説】

■ポイント

●黒沢清(1955年～)

神戸市出身。1980年立教大学社会学部卒業。80年代は助監督として映画作りを学び、90年代はテレビドラマやVシネマで活動。1997年の「CURE」で注目を浴びる。2005年、新設された東京芸大大学院の映像研究科教授に就任。監督と教授の二足の草鞋を履くようになる。カンヌ国際映画祭には度々出品し、「トウキョウソナタ」（2008年）、「岸辺の旅」（2015年）で、ある視点部門監督賞を受賞、2020年には本作で銀獅子賞を受賞している。



●受賞（第77回ヴェネツィア国際映画祭）

銀獅子賞（最優秀監督賞）：黒沢清

■見どころ

●主人公聡子の愛情

幼馴染の泰治や親類の文雄を裏切ってでも夫の優作との愛を貫く聡子

●二転三転するラストの展開

密告、逮捕、フィルムのすり替え、狂気の装い、船の沈没、渡米